

粘り強く製作に取り組み、鑑賞する相手を意識した

独自の工夫を生み出す児童の育成

—特別支援学級6年生A児を対象とする折り紙を用いた授業実践を通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（美術）

北枳 博貴

本研究は、特別支援学級（自閉・情緒障害）に在籍する小学6年生のA児を対象としている。粘り強く活動に取り組む集中力や造形的視点によって製作する力、他者を意識するというコミュニケーションの基礎を育むことを目的としている。A児の興味・関心が強い折り紙を用いた作品製作（工作に表す活動）の授業実践を行った。A児自身に表したい作品を選んで製作するようにし、過去の作品や活動の振り返り、作品展への出品を意識できるように指導・支援を行った。A児は、授業回数を重ねる中で自分なりの工夫をする場面が多くなってきた。色の選択や用いる色の系統を踏まえた工夫、輪っかや取っ手といったワンポイントの工夫が見られた。

研究授業の過程で、A児に芽生えた表現することへの前向きな変化を絵に表す活動、立体に表す活動へと少しずつ広げていく姿が見られた。課題として、A児がさらにコミュニケーションを意識した学びに、楽しんで取り組めるような単元や支援を検討することである。